

会 議 録

1 会議名

第3回浦川原区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告（公開）

ア 会長報告

（報告なし）

イ 委員報告

（報告なし）

ウ 市からの報告

- ・出張なんでも懇談会の開催について
- ・上越市総合防災訓練について

(2) 審査（公開）

ア 平成28年度 浦川原区地域活動支援事業の審査について

- ・提案者によるプレゼンテーション及び個人審査
- ・全体審査

(3) 協議（公開）

ア 次回の開催日について

(4) その他（公開）

3 開催日時

平成28年6月5日（日）午前9時00分から午後3時40分まで

4 開催場所

浦川原地区公民館3階 講堂

5 傍聴人の数

7人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員：五十嵐広美、池田幸博、市村一雄、金子百合江、杉田和久、西山康博、福井克利、藤田宏澄 会長、前島邦子、村松清、村松進副会長

- ・事務局：浦川原区総合事務所奥田所長、岩野次長、総務・地域振興グループ西山グループ長、産業グループ山崎グループ長、建設グループ小林グループ長、教育・文化グループ南雲グループ長、総務・地域振興グループ飯野班長、宮川班長

8 発言の内容

【藤田会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・出席者は11人。欠席委員は和栗副会長
- ・会議録の確認：池田幸博委員に依頼

【藤田会長】

それでは、「2 報告」事項に入る。「(1) 会長報告」は持ち合わせていない。次に「(2) 委員報告」で委員の皆様から何か報告はないか。

(会場内から「ありません。」の声)

それでは、次に「(3) 市からの報告」で、「① 出張なんでも懇談会の開催について」西山グループ長より報告いただく。

【総務・地域振興グループ西山グループ長】

(資料1に沿って説明。)

住民の皆さんとの意見交換だが、委員の皆さんからも地域の住民としてぜひ、参加をお願いしたい。また、同じ町内の住民の皆さんにも参加いただけるように声掛けをお願いする。

(続いて、「② 上越総合防災訓練について」資料1に沿って説明。)

詳細等が決まったら住民の皆さんにもお知らせしていきたいと思い、承知置きいただくとともに、地域の住民として参加等のご協力をいただきたい。

【藤田会長】

これについて、ご意見、ご質問等はないか。

【市村委員】

出張なんでも懇談会で、前回開催した成果等、良かった部分、人数もあまり集まらなかったなど、悪かった部分もあるかと思うが、何かあったら教えていただきたい。

【奥田所長】

出張なんでも懇談会については、事務所として地域の皆さんに直接お聞きする、お話

ができる場として私たちも大事な仕事だと思っている。

初回は多くの方から来ていただいた。私が平成26年度にこちらに来て今年で3年目になるが、過去2年間の開催を見ると、ある程度固定化してきており、出席していただいている方も地域の町内会長や役員の方に絞られてきていて、参加人数も少なくなっている。10人から20人弱となってきた。そういったことで、マンネリ化というか、形骸化してきているという部分もある。

平成26年度は6月頃と、10月から11月の始めくらいの2回で、同じような内容で開催していた。市からのいろいろな報告、連絡、地域のご意見、ご要望ということで、平成27年度からは、秋の懇談会については、お話をさせていただく方の団体を婦人層や青年層などに変更させていただいて、何らかのテーマを持って臨むということに変更している。

地域の皆さんから直接話をお聞きする、私たちもお話をさせていただくことは大切な、有効な場と認識しており、ただ、そこにはある程度の工夫が必要だと思っている。ある程度テーマを絞り、本音で語り合える、ただ市がいろいろなことを説明して聞いていただくだけでなく、お互いの思いや意見をやり取りする場にしていきたいと考えている。

これは、他の区を見ても地元に出かけて行き意見交換させていただくということが多くなってきている。浦川原区においてはこういった取組は先駆者であると認識しており、引き続き、いろいろな工夫をしながら続けていきたいと考えている。

【金子委員】

それについて、成果があったかどうか、結果がどうかといったことはあるのか。

【奥田所長】

成果や結果についてはあったと認識している。地域の要望等を直接お聞きして、すぐに対応したものもある。地域の皆様の思いや考えを直接お聞きして私どもの仕事に反映しており、会場で出された意見、要望はいろいろあり、私の手元で全て一覧にしてまとめて、対応できたもの、対応途中のもの、対応できなかったものを整理して、対応が完了できなかったもの、途中のものは引き続き完了させるようにしている。地域の事情と私どもの対応のきちんとしたやり取りにつながっている。

やはり、直接地域の皆さんの意見や考えを聞いて、実情を肌で知ることが大事であり、職員の意識付けにも大きく役立っていると思われる。開催は4会場あり、職員は必ず1会場には出席するようにしており、会場によっては職員の数が多いということもあるが、職員の意識付けにもプラスの面が多く、また住民の皆さんから直接お話をい

ただけるので、住民の皆さんにとっても良い場面があると考えている。

【藤田会長】

他にないか。それでは次に進める。次は「3 審査」となっているが、時間を要することであり、「4 協議」で、「(1) 次回の開催日について」を先に審議いただきたい。

事務局との調整の中で、7月25日の週で調整したいと思うが、皆さんの都合はいかがか。25日、26日、27日、28日で調整いただければと思う。25日、月曜日の午後6時30分からということによろしいか。

(会場内声なし)

それでは、7月25日、午後6時30分からコミュニティプラザの市民活動室4・5で開催をお願いします。

次に、「3 審査」で、「① 平成28年度 浦川原地域活動支援事業の審査について」細かな審査要綱があり、これについて事務局から説明をいただく。

【総務・地域振興グループ西山グループ長】

(審査要綱の説明後、注意事項の説明。)

【総務・地域振興グループ宮川班長】

(担当課からの所見、特記事項の説明。)

【藤田会長】

今の説明の中で皆さんから質問や採点方法についての意見はないか。特に今回の委員、12人のうち10人が新人であるため戸惑いもあると思われるが、大事な部分であるため慎重審議をお願いします。質問等ないか。

【池田委員】

事前に配布された資料の中に7団体の採点票と共通審査基準の採点にあたっての考え方の文書が7枚あったが、提出するのは採点票だけで良いのか。

【総務・地域振興グループ西山グループ長】

提出していただくのは採点票だけである。共通審査基準の採点にあたっての考え方は参考資料として使っていただくもので提出は結構である。

【藤田会長】

他にないか。ないようなので、プレゼンは9時30分より行いたいので、5分間休憩とさせていただきます。

(9時25分から5分休憩後、9時30分より再開)

時間になったので、これよりプレゼンテーションを始める。最初の提案者は「特定非営利活動法人保倉川太鼓」から願います。最初に申し上げるが、プレゼンテーションの時間は15分とさせていただき、その後10分の質疑応答を行う。合計25分ということで進めたいと考えている。次の提案者との交代もあるため5分の余裕を持っているが、その辺も加味して説明、委員の方は質疑をお願いしたい。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

(第8回浦川原和太鼓祭の提案に沿って説明。)

【藤田会長】

私の方から質問させていただく。NPO法人にされて、現在の会員数と賛助会員数についてお聞かせいただきたい。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

正会員数は10人である。NPO法人の最低限の正会員数が10人であり、その人数は確保している。賛助会員は定款でうたっているが、現在は0人である。

【藤田会長】

定款の中の附則の6で、正会員、一般会員、子供会員、賛助会員で会費等収入の見込みが立っていないということか。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

収入の見込みというと、定款上では会費が月500円となっていて、賛助会員の金額は別だが、正会員、一般会員、子供会員共に一口、月500円となっており、収入の見込みという点ではうたっている。

【藤田会長】

もう一点、NPO法人にされて財団や篤志家からの寄付等々について、どんな活動がされているのか。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

篤志家からの寄付はない。寄付金の収入に関しては、出演させていただいた時の寄付金のみの算入となっており、例えばニッセイ財団などいろいろな財団からの補助金があるが、ニッセイ財団の金額は60万円で、60万円だとあまり器材がそろえられないため、そちらは申し込んでいない。和太鼓祭に関しては、こちらの地域活動支援事業に提案する方が合致しているといった判断のもとに提案させていただいた。

【藤田会長】

52回の出演ということで、多くされていて、その収入は流動資産となっていると思われるが、この52回の出演料、謝礼等々は実際にいくらか。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

収支に関しては、NPO法人では活動計算書の報告が義務付けられていて、皆さんのお手元の資料が多くなってはいけないと思い、割愛させていただいたが、数字を申し上げると、平成27年度の受取寄付金は885,865円で、このうち15万円ほどが和太鼓祭での寄付金活動によるもので、差額の70万円ほどが出演の際の寄付金となる。

【藤田会長】

今回、提案の中で、既に4月から活動されており、この資金についてはどこから支出されたのか。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

内部留保からの支出である。

【市村委員】

私も素人芝居大浦安をやっている、うちも無料でやっているが、カンパということでかなりの金額をカンパしてもらっている。皆さんも無料ではあるがカンパという形で協力いただくということは、今は考えていないのか。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

先ほど会長の質問で差額の話をしたが、浦川原和太鼓祭の受付に片面の皮が破れた太鼓を置いて「浄財」と銘打って寄付金を入れていただくようお願いしている。ただ、そこへのカンパに関しては浦川原和太鼓祭の運営資金としての寄付金ではなく、保倉川太鼓に対しての運営資金、協力金ということで、毎年寄付金をいただく活動はしていて、昨年の金額は15万円程度ということだ。

【藤田会長】

他にないか。

(会場内声なし)

もう一つお聞きする。こういったイベントを自発的に開催する場合に協賛金等をいただくということについて、考えているのか。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

例えば、協賛金として一口500円等と呼びかける手もあると思う。また、浦川原の企業を回って賛助金のようなものをいただいてプログラムに載せるといった手段も考えているが、今のところ、このスタイルでいきたいと考えている。ただ、収支で赤字に

なるようでは、いけないと思う。本体の法人としての健全な運営といった点について、後々いろいろな協議を進めていかなければならないと考えている。

【藤田会長】

他にないか。よろしいか。

最後になるが、希望がたくさん出ており、満額の回答ができるかどうか、わからないが、満額でなければ受けられないということであれば、発言いただきたい。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

総事業費37万7千円で、37万円の提案ということで、いくらでも付けていただけたらと思う。

【藤田会長】

それでは、今後の活躍を期待する。

(次の提案者と交代)

次に「NPO法人浦川原桜つつみ公園を守る会」から提案の説明をいただく。

【NPO法人浦川原桜つつみ公園を守る会】

(地域活性化モデル事業の提案に沿って説明。)

【藤田会長】

NPO法人化されたことに対して敬意を表したい。

それでは、この提案について皆さんからご意見はないか。

【市村委員】

電気工事で地元の業者の見積りがないように思われる。他のものは浦川原の業者の見積りがあるようだが、地元業者では無理だということで見積りを取らなかったのか、そして中猪子田から借りているものもあるが、そこから借りることに不具合があるのか、いつも借りるのが面倒で自前で欲しいということなのか、お聞かせいただきたい。

【NPO法人浦川原桜つつみ公園を守る会】

消毒器具は中猪子田から快く貸していただいているのは間違いないが、なかなかこの日にお借りしたいとお願いしても、うまく日程が合わないことがあり、何とか自前でそろえたいということだ。使用するのは秋だけではなく、観桜会の後の毛虫の駆除や秋の除草対応にも使用するため欲しいということだ。

発電機の件だが、1件だけ見積りを取らせていただいたが、私はあまり顔が広くなく、他は取っていないが、浦川原の竹内さんという方の関係で見積りをいただいて、ここに申請させていただいている。

【市村委員】

今お聞きしたのは、電気工事の見積りで、矢野電気工業所と城東電工で、いずれも区外の業者ということで、区内の電気屋さんではだめだったのかということをお聞きした。私も商工会をやっており、できたら地元の業者を使ってもらいたいと思い、お聞きしたのだが。

【NPO法人浦川原桜つつみ公園を守る会】

区内の業者には確かに見積りをお願いしていなかったが、通常の工事と違い外線から、外の電柱から引っ張ってくるということで、この2社からということになった。

【市村委員】

区内の業者でも全然問題ないと思うが。

【NPO法人浦川原桜つつみ公演を守る会】

今年はそういった経緯で、お願いすることになったということだ。

【池田委員】

今年の観桜会に参加して、良い木がたくさんあると感じた。イベントとして年2回、春の観桜会と夏祭りだが、その他に何かイベント等の回数を増やすことは考えていないのか。

【NPO法人浦川原桜つつみ公園を守る会】

4月の観桜会と8月の夏祭りと年2回行っているが、今年は53人ほど会員になっていただいているが、なかなか良いアイデアが浮かばないということで、今後、良いアイデアが浮かんで来ればいいが、今のところは出てこないということだ。今の流れが定着するまでは春と夏の2回だけで行っていきたい。また、良いアイデアがあれば、お聞かせいただきたい。

【福井委員】

移動式アンプと照明設備について、レンタル等は検討されたのか。

【NPO法人浦川原桜つつみ公園を守る会】

他にも総合事務所のアンプなども借りて今まで開催していたが、私どものハウス等もできたこともあり、できたら自前で欲しいということで、提案させていただいた。

【西山委員】

提案書の中で活動分野の項目があり、経済活動の活性化を図る活動にチェックが入っているが、これはどのような形で経済活動をされているのかお聞きする。

【NPO法人浦川原桜つつみ公園を守る会】

もちろん、浦川原の地元の皆さんからも来ていただきたいのだが、いずれは観桜会や夏祭りをPRさせていただいて、夢ではあるが、外から、全国からということで提案させていただいている。私らのところだけでは規模が小さいため、猪子田や松崎との3つの流れを1本にして、高田の観桜会に負けないくらいにしたい。いずれは駐車場等必要になると思うが、観光バスを呼んで、お金を落としてもらいたいという夢がある。少しでも地元にお金が落ちるようにしたいということだ。

【村松進副会長】

私も今年、自然薯の関係でお手伝いに行ったが、人を呼び込む看板、ナルスのところの看板だが、そこで何かするという計画はあるのか。そこがないといくら経費をかけても人を呼ぶ効果が出てくるかどうか、人をそこへ呼び込むような、そこで何かやらないと人が来ないので感じたが、何か考えているのか。

【NPO法人浦川原桜づつみ公園を守る会】

今のところは資金の絡みもあり、総合事務所の提灯を借りたり、浦川原の集落から鉄管を借りたりして、最初は別の場所に設置したが、見えにくいということで、ナルスのところだと両側から見えるということで、ああいった形でベニヤ板を利用して看板にさせていただいた。資金がもっとあれば旗を作ったりできると思うが、欲張ってもいけないので、1年、1年伸ばしていこうと思っている。今はナルスのところの看板でいきたいと考えている。

補足させていただきたい。ライトアップ等をした方が良いのではという話もあり、実際にできたらよいが、今現在は、3番、4番で発電機を使って、夜にライトアップしているが、盗難防止のためにトラックに載せて稼働しており、さらにライトアップということになると、もう1台発電機が必要になってきて、イベントの時の発電機が足りなくなってしまうということで、外部から電源を取ってくるといった話が出てきたということをご承知いただきたい。

【藤田会長】

最後に、ライトアップされた場合、何メートルまで照らすことができるのか、しだれ桜だけをライトアップするのか、そして電源だが、他に使うための差込口、コンセントはあるのか。

【NPO法人浦川原桜づつみ公園を守る会】

今まで発電機をメインでやっていて、しだれ桜だけを重点的に照らしてもだめだということで、近くにある電柱から電線を引っ張ってきて、桜の近くに柱を立てて、そこへ

電源を持ってくるということで、提案させていただいた。そうすると今のしだれ桜4本を上から照らすことができる。

【藤田会長】

ご希望に全て添えるかどうか、審査させていただくが、要望額に達しなくても引き受けていただけるのかを確認したい。

【NPO法人浦川原桜つつみ公園を守る会】

大きなお金をお願いしたわけだが、皆さんからいただいた範囲でやりくりしていきたい。ぜひ、ご支援いただけるようお願い申し上げます。

【藤田会長】

少し時間がオーバーしたが、5分間の調整の範囲内で、次に10時30分から「浦川原小学校支援事業」の説明をいただくこととする。

(次の提案者と交代。)

それでは、「浦川原小学校後援会設立準備委員会」から提案いただいた、「浦川原小学校支援事業」の説明をいただく。

【浦川原小学校後援会設立準備委員会】

(浦川原小学校支援事業の提案に沿って説明。)

【藤田会長】

今、説明いただいたように、後援会の設立準備委員会として提案いただいております、合併に関しては市、教育委員会から絶大な支援をいただいて、3校が新しく1つの学校として誕生しようとしている。多くの経費がかかる中で、支援できるものについては、浦川原の宝である子どもたちであるため、ぜひ頑張ってください。

委員からは、いろいろな提案や質問があると思うが、いかがか。

【池田委員】

この提案書の支出部分で、楽器、コルネット、アルトホルン、ユーフォニアムが計上されているが、カタログを見ると一番安いものを選んでいて、例えばコルネットだと10万円、中学生くらいだと20万円、プロが使うのは30万円くらいということで、上はきりが無いが、それぞれ楽器で一番安いものを選択されたのは、子どものテクニックや扱い方などを考慮して、それなりにふさわしいと考えたから選択されたと考えて良いのか。

【浦川原小学校後援会設立準備委員会】

そのとおりだ。

【市村委員】

いろいろ資料を見て、先生の話も聞かせてもらい、頑張っていると思うが、二葉商事と、わたじんの見積りが、私の感覚では二葉商事ありきで、わたじんがその二葉商事の見積りに少しずつ金額をプラスして作成したような見積りにしか見えない。本当に子どもたちのためにということであれば、もう少し何とかなる見積りになるのではないかと思う。私の感覚だが、どう見ても見積りを見るとおかしいと思う。その辺、もう一度見積りを取るということはできないのか。

【藤田会長】

それは、価格の上でのことではなく、見積りが似通っているということか。具体的にお話いただけるか。

【市村委員】

あまりにも競争原理が働いていないのではないかということだ。本来であれば、もう少し金額に差がある見積りになるはずで、二葉商事の見積りに10円、50円をプラスしたような見積りに見えてしまう。せっかく大事な550万円を出すにあたってこの見積りは何か違和感がある。これが私の気のせいだということであれば問題ないが、誰も答えられないかもしれないが、そのように感じたことを伝えたかった。

【浦川原小学校後援会設立準備委員会】

私どもも素人で、わからない。それと補足だが、前期の地域協議会でこの小学校の問題が審議されたときに、校旗、校名旗が必要だということで、こちらは市の理解をいただき、市で負担いただくということになった。旗は刺繍があり何十万円もするものであり、2つで百数十万円するというので、この他に必要だということで、ご理解いただきたい。

【藤田会長】

他にないか。よろしいか。

(会場内声なし)

それでは、提案者の皆様、希望額が予定の金額よりオーバーしており、金額が削減されてもこの事業を遂行していただけるか確認したい。

【浦川原小学校後援会設立準備委員会】

是非、ご理解いただき、素晴らしい浦川原小学校がスタートできるように絶大なご支援、ご協力、ご理解をいただきたい。

【藤田会長】

時間が予定より進んでおり、現在10時50分であり、皆さんの採点に5分を割くが、10時55分から次の提案者に説明いただく。

(次の提案者と交代。)

それでは、「うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会」から提案のご説明をいただく。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

(うらがわら雪あかりフェスタの提案に沿って説明。)

【藤田会長】

大浦安、牧区の事業で、浦川原も後発ながら一緒になって取り組んでいただき、実行委員会も昨年できたところだ。これについて皆さんのご意見はないか。

【西山委員】

提案書の団体等の概要で、子どもの健全育成を図る活動の項目にチェックが入っているが、どのような活動をされているのか教えていただきたい。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

浦川原中学校の生徒が、平成26年度から地域協議会との関連も含めた勉強の中で、この浦川原区内のイベントについて議論されているが、そのような中でこの「灯ともしびの回廊」のイベントが評価されており、月影の郷、浦スポの体育館を中心に雪像づくりや雪ボタル、キャンドルを設置するところに協力していただいている。それを地域の方たちと一緒に行動するということが、イベントに対する姿勢になっていて、子どもたちの大切な取組となっている。

【藤田会長】

他にないか。それではお聞きするが、毎年の事業であり、今回、旗について100本の要望があり、これは今回一度にそろえた場合、今後は提案の必要はなくなるのか、継続して提案されるのかお聞かせいただきたい。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

のぼり旗については少し足りない状況であり、感じたことは、要所、要所で立てているが、なかなか目につかないようで、今回の100本を追加することで満足できると思われる。次年度以降は今回用意したものでPRしていけると感じているので、よろしくお願ひしたい。

【村松清委員】

のぼり旗を新調されるのは賛成だ。今年のイベントの時に見たが、色あせており、本当にこれで人が呼べるのかといった感じを受けた。もともと色あせたような色合いなの

か、もう少し濃い色を使った方が良いのではないかとと思われるが、いかがか。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

色あせたように思われるかもしれないが、実は、ろうそくの炎をイメージしており、明りを強調したくて、この色にしたということである。採択いただければ関係者と検討した中で、色を濃くすることも考えて行きたい。いずれにしても炎を表しているということをご理解いただきたい。

【藤田会長】

他にないか。

(会場内声なし)

予算がオーバーしており、減額されてもこの事業を実施されるのかお聞きしたい。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

平成28年度の希望額がオーバーしているということで、承知している。満額をいただけても整備できるようであれば、工夫したPR方法で、設置方法を考えたりしていきたいと考えている。できたら看板だけでも採択いただければと考えている。その中で審議していただきたいと考える。

【藤田会長】

それでは、5分を採点時間に割り、11時15分から次の提案者からプレゼンしていただく。

(次の提案者と交代)

それでは、「浦川原中学校同窓会」より「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」について説明いただく。

【浦川原中学校同窓会】

(浦川原中学校吹奏楽部支援事業の提案に沿って説明。)

【藤田会長】

同窓会については休眠状態であったものを、現同窓会長のお力によって平成26年度から活発な活動ができるように改革していただき、同窓会自身も飛躍してきている。その中で、中学校の楽器について応援して行こうということで、昨年からはまったことである。皆さんについては十分ご理解いただきながら質問をいただく。

【市村委員】

他にも支援していきたいということだが、昨年が続いて今年も吹奏楽部ばかり支援しているというように思ってしまうが、他からの要望等はなかったのか。非常に高額であ

り、昨年に続いて今年もと感じている。他の支援の予定があれば教えていただきたい。

【浦川原中学校同窓会】

今回の事業は吹奏楽部の支援ということで提案させていただいたが、今の同窓会の中で支援できる部分ということでお話をさせていただいている。吹奏楽部の楽器購入ということに関しては非常に厳しいものがあり、いろいろな考えがあると思うが、楽器に関しては同窓会の力ではどうにもできないということで、地域活動支援事業に提案させていただいた。

【市村委員】

具体的に他は今のところないということのようだが、先ほどの浦川原小学校の提案も聞いておられたということで、今後、見積りに関して十分考えていただきたいということをつけ加える。

【浦川原中学校同窓会】

今回、お願いしている楽器については一番上級のものを選択しているわけではなく、昨年と同等のものということで、ある程度こちらで仕様を指定させていただいている部分もあるということをつけ加えさせていただく。

【福井委員】

提案の希望額が大きいですが、もし減額して認められた場合、楽器が全て購入できないということもあると思うが、その場合は楽器のグレードを落として全て購入されるのか、いくつかの楽器の購入を見送り一部の楽器を購入するのか、その時の優先順位があれば伺いたい。

【浦川原中学校同窓会】

大会の先生にお伺いして、どうしてもコンクールに必要なものは提案書の「イ 支出の部」の楽器購入費のところであり、この順番が優先順位ととらえていただいて構わない。ただ、高級仕様となると防錆加工等が良いと思うが、支援いただいた金額に合わせて工夫していきたいと考えている。

【西山委員】

昨年、管楽器6台、打楽器2台、備品1台ということで、貸与されている。今回も多額の申請をされているが、この品物の維持、管理、責任体制はどうなっているのか、お聞かせいただきたい。

【浦川原中学校同窓会】

貸与という形で毎日、中学校の音楽室に置いてあり部活動で使っているが、簡単なメ

メンテナンスのサービス冊子が楽器についていて、練習が終わったらメンテナンスをしつつ音楽室で管理していると思われる。修理が必要になった場合は先生がチェックしており、修理依頼等している。同窓会で保管場所等をどうするという事はない。

【杉田委員】

去年から提案されているということだが、提案書の中の次年度以降の見通しも見せていただいた。本来、学校の教育設備、備品を含めて、それを購入するのは学校当局であり、しかし同窓会として浦川原中学校の発展に寄与する、側面から支えるということで、学校当局ではないが、いろいろな事情を聴けば信用しなければならないということで、去年から提案されているわけだが、吹奏楽部全体でどんな楽器があり、どんな楽器が必要で、まだ足りないのか、持っている楽器も老朽化しているのか、全体の規模がわからない。去年、今年、次年度以降も見ると、中学校の楽器全てをこの支援事業で提案されるように思われる。それを悪いとは言わないが、全体の規模が見えないため、今年も205万円という多額の予算でも追いつかないということなのか、どの団体も金額を削られたくないと思う。何年もこのようにされるのか、金額的にも数的にもまだ足りないということなのか、将来的な見通しはどうかをお聞かせいただきたい。

【浦川原中学校同窓会】

はっきりと言えないが、昨年購入させていただいた楽器、今年提案させていただく楽器だが、年々子どもの数が減っており、部員の数も2倍、3倍になることはないと思われる。しかし、これで打ちきりかどうかは、はっきり申し上げられないが、同窓会としての活動支援の見通しとして次年度以降と書かせていただいている。その中で楽器の補充が出てくる可能性もある。それが1台になるか5台になるかは、その楽器の耐用年数や状態によって違って来る。私も管楽器の専門家ではないので、はっきり言えないが、10年、20年持つ、3年しか持たないものもあると思われるので、その楽器の状態を見ながら、また購入したいということが出てくる可能性がある。それが来年になるのか、再来年になるのかわからない。もし、かなわない場合は他から対応しなければならないと思うが、吹奏楽部で使用している楽器については他の生徒が授業で使うものではないので、学校で一括購入はできない。同窓会で支援できたらということで、今まででもリペア等も支援させていただいていたようだ。

【村松進副会長】

学校の先生の許可を得て実際に吹奏楽部の練習を見させていただいた。本当に生徒たちが熱心に練習されていた。中にはボロいと言っては失礼だが、そういったものもあつ

たが、皆さん楽器を丁寧に使っておられた。

先ほどの福井委員の質問で楽器の優先順位は上からと言われたが、本当に上からの順番なのか。

【浦川原中学校同窓会】

若干前後するかもしれないが、一番上のトロンボーンに関しては、今年のコンクールに出場するためにこのキーを使ったトロンボーンでないと演奏が難しいと聞いている。他の楽器も老朽化していて音が十分に出なくなっていると聞いているので、もし、減額された場合は、優先順位を精査して購入していこうと考えている。

【藤田会長】

これも、子どもたちの教育の一環として大切な事業だと思う。報告によると、去年は楽器を購入したことにより成績が常に最下位であったものが、ランクが上がったということで、校長先生からお聞きしている。皆さんも限られた予算の中で慎重に審議いただきたい。次のプレゼンは11時45分から始める。

(次の提案者と交代)

それでは、「うらがわらジュニアスポーツ団体連絡協議会」の提案で「青少年の地域での育成にかかわるレクリエーションスポーツ事業」の説明をいただく。

【うらがわらジュニアスポーツ団体連絡協議会】

(青少年の地域での育成にかかわるレクリエーションスポーツ事業の提案に沿って説明。)

【藤田会長】

去年に続いての提案であり、皆様方からご意見をいただく。

【市村委員】

去年が不採択だったということで、今年改めてということだが、実際に行うとなると、それなりに大人が必要になると思われるが、希望は8艇、7艇となっているが、とりあえず2艇、3艇でやってみてはどうかといった話が出た時にどうされるのか。それと相見積りの金額が同じ数字となっていて、相談したとしても違う金額になるはずで、相談もなしで十円の単位まで同じ金額になったことに対して何か理由はあるのか。

【うらがわらジュニアスポーツ団体連絡協議会】

減額された場合ということだが、減額されても大丈夫である。8艇は親用、7艇は子ども用と考えている。親子で行うわけで、7艇、7艇で、1艇は巡回して監視用にするということで、これが4艇の3艇でも良い。夏で10回くらいの実施を予定しているが、

応募がかなりあると予想されるため、5艇くらいないと回せないかと思われる。10日間の実施を予定した場合、一人500円ずついただく予定にしているが、午前の部と午後があり最低はその位は欲しいということだ。

そして見積金額の一致ということだが、私も知らなかったが、製造する会社が日本にあまりなく、有名なカナダであればたくさんある。私たちは、地元ということでスポーツホームタウンにいつもお願いしており、今回もお願いした。そしてウエスト上越にも見積りをお願いした。想像だが、同じメーカーに問い合わせ、値段を記載してきたため同じになったのではと考えられる。私もどちらかが安ければそちらにして、たくさん買えば良いと思うが、恐らくそういうことだと思われる。

【村松進副会長】

カヌーは長野県の千曲川等でやられているようだが、そこでやっている子どもたちに話を聞いたことがある。真っ黒になって、「おじさん、面白いよ。」と言っていた。そこで、いくらかと聞いたら、「カヌー一隻いくら。」だと、「友達を誘って、たくさん連れて来れば安くなる。」と言っていた。そこにはカヌーをマイクロバスで運ぶ人もいて、子どもをカヌーの場所まで連れて行き、帰りに温泉に入って家へ帰ると、本当に楽しそうにしていた。

本当に金額は高いが、我々の小さなころは川で遊んでいた。子どもには危険だという話もあるが、なぜ危険かという、子どもたちが肌で危険を感じないとだめだと思う。ただ危険だということ子どもたちはやりたがる、やっちはいけないということやりたがって、自分で一度経験すると二度とやらなくなると思う。

金額が大きい、私は事業として見て、子どもたちにすれば良いことと思われる。

【西山委員】

私は鮎釣りをしていて、このあたりの川を見ているが、保倉川はカヌーに適した環境なのか、そして、ここに申請されている8艇という台数は管理していくという難しさもある、単純にカヌーを買って実施するということでもいいのかということが問われる。本当に現実性があるのか、安全性はあるのか、本当に環境に適しているのか、そういった努力もされるのか、という点で疑問があり、大まかで良いがお聞かせ願いたい。

【うらがわらジュニアスポーツ団体連絡協議会】

カヌーの川下りだが、このあたりだと、おぐに森林公園でやっていて、そういった川とは全く違う。カヌーを体験させながら、もう一つガキ大将の一面もあるということで、助け合う、例えば、このカヌーを小学校6年生などは一人で持てるが、3年生くらいだ

と持てない、山崎の団地裏に頭首工があり、印内に3か所、飯室に2か所、頸城の方で1か所頭首工があり、そこへ行くまでに人が持って降りなければならない。最終的な目標は小谷島の橋から降りて、関川の合流まで行くということが私の最終的な目標である。そうすると、浅瀬を皆で持って、仲間で持ってということで、新しいカヌーの利用の仕方、ただ川を下ればよいということではなく、ここは手をかけないと乗れない。水の流れが溜まっている部分は一生懸命漕いで、乗れない場所は子どもたちの手で持ってというようにしないといけない。皆さんのお考えの環境とは違う。

そして、管理面としては、拠点は長走の橋で、上流は浅くなるので下流を利用して徐々に慣れさせたい。橋の下の堤防が斜めになっているので、そこに置いて、冬場は体育館で管理したい。そして努力の面だが、どう周知するかということで、スポーツクラブ、青少年育成会議にも声をかけさせていただき、共同でやりたい。そして小学校、中学校のPTAの活動としても声をかけさせていただき、中学校の学年PTAでスポーツをすると大体は体育館でやられることが多く、なぜ外に、自然に目を向けないのかということで提案させていただいた。

西山委員も川に詳しいということだが、昔は保倉川に自然の鮎がいた。菱田の橋のところの水が冷たくなっていて自然の鮎がいて、私が高校のころは自然薯そばの裏のあたりまでいて、8月の暑い時期に鮎が浮いてきて手づかみしたといった記憶がある。そういったことで、子どもに魚の種類や今の時期だと石をどけると魚の卵が付いている。そういったことで自然を体験させたい。ということで夢を語らせていただいた。

【藤田会長】

夢を語っていただいたが、ガキ大将、少年を育てるということは良いことだと思うが、去年の不採択になった事由については、指導者がいないのではということと、川的环境、水質が実際にカヌー等の水遊びに適しているのかどうかということで、指導者の養成、川的环境、水質等については実際に川遊びができる状況なのかを保倉川を管理している県あたりに要請という話が去年は出ていたと思うが、その辺の働きかけや調査などはされているのか。

【うらがわらジュニアスポーツ団体連絡協議会】

水質に関しては毎年1回、川の水質調査をされているので問題はないと思う。また、指導者の面だが、去年も会長に言われて、資格を取りに行こうという考えでいたが、ちょうどタイミングが合わずに実際、資格は持っていない。この資格はカヌーだけでなく、自然、全体の中にカヌーが含まれていて、1日で取れる資格ではなく、2泊3日くらい

かかるようで、私自身はまだ取れていないということで、国立妙高青少年自然の家というところで資格を持っている方がいて派遣していただき、後は私の経験で補助していこうと考えている。

【藤田会長】

時間が来たので、これで終了させていただく。次に「第5回うらスポマラソン大会」だが、12時15分からプレゼンいただく。

(次の提案者と交代)

それでは、「第5回うらスポマラソン大会」の提案を「特定非営利活動法人うらがわらスポーツクラブ」よりプレゼンをいただく。

【特定非営利活動法人うらがわらスポーツクラブ】

(第5回うらスポマラソン大会の提案に沿って説明)

【藤田会長】

これについて、ご質疑をお願いします。

【市村委員】

アーチは他のイベントにも貸し出ししていただけるのか、また、他の区で貸してほしいと言われた場合に貸し出しが可能なのかどうか、ただ、あまり貸し出すと破損する場合もあるので、その辺どのように考えているのか。

【特定非営利活動法人うらがわらスポーツクラブ】

新事業として、支援いただいて購入するわけで、スポーツクラブで管理するが、貸し出しは可能である。ただ、エアロアーチの窓に8文字分入り、ちょうど、「うらスポマラソン」の文字が入る。他で使う場合は隙間が空いたり、文字数が足りなくなる場合もあるが、その辺は借り手側で考えていただく。当然一度借りたら毎年貸してほしいとなると考えられるので、使い方等を教えれば次回からの作業費もかからないと考える。

【藤田会長】

このエアロアーチはどうしても必要なものなのか。そしてマラソン大会はタイムレースではないと聞いているのだが、このスポーツタイマーとはタイムを図るものではないのか。

【特定非営利活動法人うらがわらスポーツクラブ】

エアロアーチだが、経費削減のため手作りのアーチ、柿崎の米山マラソンなどは手作りでやられているようだが、我々の理事会で話がでたが、国道で目立つところであり、

通る方たちが皆さん見られるということで、手作りでは、みすぼらしいのではということになり、お金がかかっても仕方がないのではということで、スポーツクラブでは必要ということだ。そして、先ほどの市村委員の質問にもあったが、貸し出しがオッケーということなら私だけではなく、いろいろなところで利用してもらえるとということであれば、必要ではないかと考える。

スポーツタイマーだが、タイムレースではないがランナーは時間を気にするということで、3キロ、5キロ、10キロの各コースで1キロごとに杭が打ってあり、自分で時計を見ながら走っていて、自分のタイムを計っているようだ。以前にこのコースは10キロあるのかと聞かれたことがあった。実際は10キロコースと言っても9キロ強しかなく、5キロコースも4.3キロと短く、逆に3キロコースは3.3キロとなっていて、非常にアバウトであり、開会式の時にそのことは伝えている。また、最初に10キロの人がスタートして10分後、5分後にそれぞれスタートするので、その時にタイマーを見てスタートしている。やはり走る方は時間を気にしている。ということでタイマーはなくせないということで、今回申請させていただいた。

【藤田会長】

他にないか、よろしいか。予算がオーバーしており、減額された場合でもご了解いただけるか。

【特定非営利活動法人うらがわらスポーツクラブ】

減額されても、それなりに実施したい。

(提案者退席)

【藤田会長】

それでは、予定時間より早く終了した。これより午後2時まで皆さんの採点の集計に入る。事務局で何かあるか。

【総務・地域振興グループ宮川班長】

(採点表を提出にあたって注意事項の説明)

【藤田会長】

それでは、採点表ができ次第、事務局へ提出いただき、食事をとっていただきたい。

(食事休憩後、午後2時10分より審査再開)

それでは全体審査に入る。集計の関係で時間がずれ込んだが、活発な意見をいただき

たい。採択に合致するか、個人集計も出ており、これについて事務局から説明いただく。

【総務・地域振興グループ宮川班長】

(採点結果一覧、採否決定記録票に沿って説明)

【藤田会長】

皆さんから意見をいただきながら、補助金の金額を決定する。それから、特記事項を参考にさせていただきながら全体の審査をお願いする。具体的に限られた550万円の範囲の中でどう収めていくかということを確認しながら進めていきたい。7件の提案があり、提案者に確認したところ減額されても事業を続けるという意見であり、これも加味してお考えいただきたい。

【池田委員】

以前は、採点の合計点が190点、200点などの数字になって出ていたが、今回は平均の合計で18点、19点とかになっている。この方針にされたのは何か理由があるのか。

【藤田会長】

平均点でなく、最高点と最低点ということか。

【池田委員】

皆さんの付けた点数の合計点が出ていない。

【藤田会長】

去年はどうだったか。

【池田委員】

去年は出ている。

【藤田会長】

最高点と最低点が出ているが、これでは審査しにくいということか。

【池田委員】

特にそうではないが、平均値の合計だと合わないのではと感じたので、確認したかった。

【藤田会長】

今、指摘いただいたが、昨年と比較して審査しにくいということはないと思われ、今回はこの表で進めさせていただきたいのだが、よろしいか。審査してみて、昨年と比較して、またご意見いただければと思う。

(採点結果一覧、採否決定記録票の特記事項を読み上げ)

今、ここではっきりしているのは「浦川原小学校支援事業」については皆さんの意見がまとまっていて、要望どおりの1,986,000円については問題ないと思われる。平均点が20点、賛成、優先採用が11人であり、異議もないため満額でよろしいか。大事なことであるため、発言をお願いします。よろしいか。

(会場内全員「はい。」の声)

それでは、「浦川原小学校活動支援事業」は1,986,000円ということで、申請どおり決定する。

【総務・地域振興グループ宮川班長】

事務局から訂正させていただく。「第5回うらスポマラソン大会」の特記事項の中に「青少年の地域での育成にかかわるレクレーションスポーツ事業」の項目が含まれており、「・保倉川の環境が整っていない。」という項目はNo.6に入るものである。

【藤田会長】

「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」だが、「新しい楽器で成績を上げてほしい。」「色々なイベントに参加してほしい。」「申請する責任感がない。」「申請すればいいとの考えではいけない。」「あまりにも多額である。」「教育一環であり、全額希望どおり採用すべきである。」ということで、意見が2つに割れているようだが、この部分についてはいかがか。

【福井委員】

私は昨年、この吹奏楽部の支援事業の申請者の立場で出席させていただいたが、今回提案されている楽器を見るとグレードの高い楽器を提案されていると思われる。提案書の見積りの中で「カスタム」と書かれている楽器で、同じヤマハでカスタムではないグレードの楽器もあるが、何が違うか調べたら、カスタムは職人さんが1台、1台手作りの部分が多く、製造される楽器が「カスタム」であり、同じような性質、性能ではあるが、ある程度機械化された量産体制の中で製造されるカスタムではないモデルもある。

また、材質で銀や白銅でできているなどがある。白銅のものは安いですが、それはそれでメリットがあり、グレードをもう少し検討していただいても良いのではと思われる。金額も大きく、他の団体からも要望が出ているので、今年全てそろえるということではなく、例えば優先順位の低いものに「コンサートシロフォン」と言うものがあり、413,100円で、これは木琴みたいな楽器で、上部の板はカリン等で、この部分がFRPでできているモデルもある。

見積りを見るとカタログ価格の85%の価格で見積りが出てきているようで、木のも

のよりFRP製のものを選ぶと6万4千円ほど値段が違ってくるので、優先順位の低いシロフォンなどは、今回は見送るということもあると思うが、皆さんのお考えはどうか。

私は今年の提案に全く関わっていないわけではなく、提案にあたってはいろいろ意見を述べて、提案書の作成にも関わらせていただいた。中学校の方に要望がたくさん出てきているので、事務所の担当者から何か削れるものはないかと、PTA会長、同窓会長へお話があったということで、相談させていただいた中で、仮に提案の3割を減額された場合にどういった選択をするかということ伺った際に、アルトサクソ、コンサートスネアドラム、コンサートシロフォンは削ると、他の楽器は購入したいといったお話があった。この3つを削ると1,318,200円ほどになる。本当なら全てそろえてあげたいが、限りある金額の中での審査となるため、皆さんのお考えはどうか。

【藤田会長】

価格の面について提案があり、昨年購入された楽器との整合性もあるかと思われる。専門家でないためわからないが、安かろう、悪かろうではいけないと思う。いろいろお話をお聞きすると音色についても値段によって違うということのようだが、専門家である池田委員いかがか。

【池田委員】

専門家ではないが、金子委員も私と同じで中学校時代は吹奏楽部であり、時代も変わっているが、福井委員のほうが現実をよく知っていると思われるが、少し聞いていただきたいことがある。

特記事項の中で「申請する責任感がない。」「申請すればいいとの考えではいけない。」とあり、どなたがコメントされたかわかりませんが、どういった考えなのかお聞きしたい。それと昨年は200万円ほどでしたが、全額採択されたが、今、福井委員から7割程度でいけるのではというお話があり、楽器については専門家ではないが、例えば小学校でも同じ、ホルネットとトランペットでは多少違うが、ほとんど音域は一緒である。その楽器ができた歴史的背景が違うということだ。トランペットはもともと軍隊で、皆さん起床ラップをご存知だと思うが、軍隊で使われたものがトランペットとして使用されている。ホルネットは同じ音色ですが、少し音が柔らかく元々、牧羊など羊を集めたりする時に使われたのが発祥ということだ。どちらも吹奏楽部で使われており、音色のキレがいいのはトランペットで、ソフトな感じがホルネットである。

楽器の高い、安いは材質の関係もあると思うが、45年ほど前だがトランペット1本5~6万円していた。その時の高卒の初任給は4万円前後であった。それを現在と比較

するのは問題があると思うが、トランペット1本20万円というのは、決して高価なものではないと思われる。

私も実際に、わたじんへ行ったり、二葉商事から楽器を買ったりしたことがあるが、実際に二葉商事へ話を聞いた。上越地域の吹奏楽部の楽器はほとんど二葉商事が面倒を見ているようで、それは地域性もあるのかもしれない。楽器は見積りの安い方を選んで購入してそれで終わりではない。アフターメンテナンスが必ず付いて回る。これは車と一緒に自分が懇意にしている自動車屋で買ったなら100万円で、知らないところでは99万円だったと、皆さんと考え方は違うかもしれないが、私は1万円高くても緊急時に面倒を見てくれる、そういう自動車屋を選ぶだろう。

確かに200万円という金額だが、最低でも7割程度はあげてほしいと思う。

【藤田会長】

アフターサービスといったことも含めて、池田委員の意見は安かろう、悪かろうではいけないということで、アフターサービスもこういった楽器は大切なことだということである。

それと、申請すればよいという考えでは困るということだが、必要があつて2年に渡って申請があがってきたのだらうと思う。例えば金額を削って、また来年同じように提案されるということでは、まずいのではないかと思う。今回は申請どおりにあげた場合は、全部そろうのか。福井委員いかがか。

【福井委員】

全部そろうということではないと思う。今年現在、吹奏楽部員が17名いて、浦川原中学校が所有している楽器はほとんどないということだ。中学校のものはサクソフォンが2台あるだけで、1台はどうか使えるが、もう1台は使い物にならないというものである。他は全て他の中学校からの借り物である。

生徒数はこれから減っていくかもしれないが、昨年の方と今年の方を合わせても、必ずしもコンディションの良い楽器が生徒全員に行き渡るわけではないので、今後もこういった機会があれば提案させていただくことはあると思う。ただ、去年話を出した時に、本当に切実な状況があり、今一番困っている楽器をとということで、去年提案させていただいたが、一番困っていた楽器を去年買わせていただいた。

しかし、今年提案された楽器はそういったことではなく、去年の段階では緊急度が低かった楽器である。そのような中、支援事業が今年もあり他の楽器もコンディションが良いわけではないため今年も提案させていただいた。他の団体からも要望が出ている中

で、浦川原中学校吹奏楽部だけ多額の支援をいただいてもどうかということで、もう少し時間をかけてそろえていくということを考えても良いと思う。

それと、今、安かろう、悪かろうという話があったが、そういうことはないと思われる。カタログを見ると、安いから悪いということではなく、本当に安いのは台湾製や中国製などがあるが、中国製などは値段がすごく安いですが質はそれなりである。台湾製は日本製に次いで、性能も日本の技術を持って行って作っているため性能も良いが、台湾製は日本製の次である。やはり日本製、特にヤマハ製などは性能が良く、カスタムなどはプロや大学の吹奏楽部など、大人の演奏家が使うようなものが今回挙がってきている。こういったものを中学生が持つにあたってメンテナンスなど、自分のポケットマネーで高価な楽器を購入する人たちと違って、与えられたものをどれだけ丁寧にメンテナンスをして使い続けられるかということを含めて、指導、育成が必要になる。子どもたちのことなので、どれだけ大事に、丁寧に扱ってくれるかといった心配はあるが、そうなるも楽器は消耗品の要素も出てくるわけで、身の丈に合ったものを持ってもらい、更新していくといった方向性を考えた方が地域活動支援事業に提案するにあたって、そのほうが誠実だと考える。

【市村委員】

地域活動支援事業として考えた場合、子どもたちが関わる部分から入っているが、やはり大人の頑張りを助けていく必要があると思う。地域で何かしようとした場合、大きな金額が先に決まって、残りの少ない金額を他の事業で減額して分配しても、地域が面白くなくなってしまうような気がする。福井委員が減額してもいいのではということで、少し気持ちが楽になったが、できたら地域で頑張っている人たちに、全額とはいかないが、これで頑張るということに、出していくべきなのではと思う。生徒たちの気持ちもわかるが、そういった方向にも目を向けていただきたいと思う。

【藤田会長】

考え方として、ここに一覧表になっており、一つの発言がなかったから申し上げたままで、決して偏った形で審査しているわけではない。まとめ役としてそう判断されるのは迷惑であり、皆さんから積極的に発言をしていただかないと、こういったことになる。新人委員が10人おられるが、その辺をご理解いただきながら、真剣に取り組んでいただきたい。

【村松清委員】

特記事項にも「あまりにも多額である。」とあり、一般の方が見てこの200万円を

我々が承認したということで、どう思うのかということだ。一般的なものとかけ離れているのではないかと思う。通常なら学校のことだからという話になる。ただ、2年連続ということで、果たして、この金額は一般の皆さんが承知するのか、しないのかという部分を考えて、多額なのではないかということで、少し減額されてはどうかという意見に私は賛成である。

【西山委員】

私たちは初めてで、現状が見えない。楽器に対する感覚も少ない、本当に困っているのか、私の娘も吹奏楽部にいたが、先輩から受け継いだ楽器を大事にして、次の後輩に引き継いだという話を聞いたことがある。現状が見えないものをまた、購入してほしいという気持ちはどこにあるのかと感じる。これは感じたことで申し訳ないが、もし、来年提案があるようなら、現物を見せてもらうといったような、場を作っていただかないと、また私のような意見が出るのではと感じた。

【藤田会長】

私もこの同窓会の最後の立上げに深く関わっていて、各地区、下保倉地区、末広地区、中保倉地区、月影地区で支援するお金、17万円でやり繰りするということで、その時に同窓会はどうなっているのかという話をお聞きしたら、全く活動していないという話で、同窓会を立ち上げていただき、恐らく80万円ほどを同窓会の活動資金にしていって、その中で出てきたのが今年の提案であった。

今は、大島中学校や安塚中学校から楽器を借りているということで、このことについて皆さんどうお感じになるか。これを聞いた時に私は恥ずかしくなった。安塚や大島が児童減になってきて、楽器が空いているので貸してもらうということになったのだろうと思われるが、浦川原中学校が他の中学校から楽器を借りて吹奏楽をつないでいるということは、これは子どもたちの希望に本当に即しているのかという気持ちがあった。

それで、同窓会長に当時、福井委員も副会長でしたが、ご提案されてこういった形になったということだ。

【金子委員】

私も浦川原中学校の吹奏楽部だったが、今の楽器は借り物だという話で、私たちの時は考えられなかった。浦川原中学校の楽器を使っていた。私は有島でピアノ教室をやっているが、昨年生徒から、「吹奏楽部の楽器は吹いても音が出ない。」「良い音が全然出ない。」「だからやる気もなくなっている。」という話を聞いて、それは困ったことだという話をしていた。その後、新しい楽器を買ったと、子どもたちの喜ぶ顔がとても

輝いていた。

昨年、支援していただいて本当に良かったと思うが、今のお話を聞いていると多額ということもあるが、子どもたちの笑顔をあまり見たことがなかったので、よほど酷かったのだろうと思っていた。今回は吹奏楽の大会に出るための楽器がいるということで、私は判断したのだが、いかがか。

【福井委員】

それは、普段の活動での使用も含めてだが、ただ、今年の大会で予定している楽曲を演奏するために必要なものがトロンボーン2台は絶対必要ということで優先順位になっている。

【金子委員】

その優先順位で、あまりにも多額すぎるということを心配している。本当は全部そろえてあげたい、私も卒業生であり、現状もわかっている。だが、その辺をもう少し考えて判断していただきたいと思い、優先順位でどうしてもいるものを何点かそろえた方が良いのではと考える。

私の子どもは剣道をやっていたが、剣道の胴着などは自前やおさがりであり、学校で買ってもらおうということはない。そういったことを考えた場合、楽器と胴着は別だと思うが、どうしてもいるものだけに決めていただきたいと考える。本当に子どもたちのためを思っているが、お話をお聞きするとそう感じた。

【村松進副会長】

私も中学校のことなので、全額かと考えたが自分で採点してみると、^{ゼロ}0円ではいけないから、ヤマハのフルートまでで1,252,800円になるが、その金額を支援したらどうかと考える。

【藤田会長】

村松進副会長から、ヤマハのフルートまでの1,252,800円になるということで、具体的な数字を出していただいたが、他に意見はあるか。

【市村委員】

いろいろな意見が出た中で、私は具体的な数字は言えないが、3割減という話も出てきたので、そのあたりで良いのではと思う。優先順位が上からと言っても実際には違ってくるかもしれないので、金額的には3割減額ということでいかがか。

【藤田会長】

7割とすると、140万円くらいか。それでは、要望の金額の7割で進めるか、仮置

きということで良いか。

(会場内から「はい。」の声)

それでは次に進める。また、全体で見直しが必要になってくるかと思うが、積極的に
ご発言いただきたい。

【市村委員】

うらがわら雪あかりフェスタの金額が一番少ない。先ほどの話で私の解釈だが、今回、
支援していただけたら、来年以降は提案されないといったようなニュアンスだったと感
じた。多少の減額があったとしても、私らの中猪子田も昨年から参加させていただいて
いて、徐々に上^{かみ}へ上^{のぼ}っている感じであり、できたらゆあみとドッキングして一緒にでき
るようしていただきたいという思いがあり、ある程度の金額で皆さんから了解してい
ただけたらと思う。

【藤田会長】

浦川原区は特別PRをしていかないと、なかなか集客につながらない。それはコメリ
のところから皆さんバイパスに入って、安塚へ行ってしまうということで、ゆあみや月
影の郷でずいぶん頑張っていたいただいて、お客さんを引きつけるようにしているが、
もう少し浦川原区としてのPRを広めていかないと、大変かなと思うところはある。

ということで、ここに提案が出てきている。それでは「うらがわら雪あかりフェスタ」
は満額の253,000円ということで、よろしいか。

(会場内から「はい。」の声)

それでは、満額を付けさせていただくということで、了解いただいた。

【市村委員】

心配になってきたが、最後まで審議したときに、550万円を超えた場合はどうする
のか。もう一度話し合いをするのか。

【藤田会長】

そういった場合もある。その場合は、削れるものを削るということで、また0^{ゼロ}から始
めるということではない。

【池田委員】

「青少年の地域での育成にかかわるレクレーションスポーツ事業」は昨年却下されて、
再度今年も提案されているが、皆さんの点数も一番低く、特記事項の「多くの参加が期
待できない。」と「指導者の不在、使用許可の問題、保険はどうするのか、問題点が多
い。」と書いたのは私だが、会長も質問されて、昨年却下された理由はこうで、その辺

はどうなったかと質問されたが、一点、答えが返ってきていないものがあった。

それは、河川の使用許可の問題で、例えば、考え方や夢は非常に良いものであるが、楽しいと背中合わせで危険が付いて回っている。事故等があった場合は誰が責任を取るのか、きちんとした資格を持った人もいないということで説明があった。そしてこれだけのことをする場合は、河川の使用許可がいるはずで、保倉川は一級河川であり、河口から3～4キロは国、国交省の管轄でそこから上流が県の地域振興局の管轄である。それに関して昨年も質問があったのに、物品の購入だけを急いで、その辺のバックの準備ができていないように感じられた。そういったことを考えると、私は不採択が妥当と考える。

【藤田会長】

一番心配するのは、許可問題、水質問題、安全面で、事故が起きてからでは遅いわけで、昨年もお願いしたところだが、なかなか前に進んでいないようだが、購入してそろえたいということのようだ。

【福井委員】

子どもたちと一緒に活動するということだが、まだ指導者がいない状況のようだ。村松副会長はじめ、それ以上の世代の方々は保倉川で泳いだ経験があり、私くらいの世代だと川の汚染が進んだりして、プールの整備も進んだことも関係あるだろうが、そのあたりから皆、川から離れてしまった。故郷の川に背中を向けてしまったのではないか。

そういった文化や伝承は50年で断絶すると言われている。大体2世代である。2世代でそういった川遊びなどは断絶してしまう。伝えたくても伝える相手がいなくなってしまう状況である。そういった中で、河川環境も下水道や浄化槽の整備等が進んできている中で酷い時よりも良くなってきているということもあり、もう一度川へ目を向けてほしい、地域財産である保倉川の価値を再発見する、付加価値を与えたいという気持ちがあり、お話を聞いていると大事なことだと感じる。

指導者を育てていくということは、それなりの支援がいると思われ、またカヌーも安いものではないので、子どもたちのレクリエーションを前提にして、まず準備期間として大人たちが保倉川で実際にカヌーに乗ってみて、話ができる状況かどうか確認して、それに資するものは提供しても良いと考える。

子ども用のものは採択しないで、準備として大人用のものを2艇～3艇ということで減額して支給するといった方法がふさわしいのではと考える。

【市村委員】

福井委員が言われたように、私らの世代は小さなときに川遊びをしてきた世代であり、提案者の言われることはよくわかる。もう一度川で子どもたちの声を聞きたいという思いはある。ただ、そこにいくつかの問題点があることと、昨年から1年経過したが、なかなか計画がはっきりしていない、準備不足の面を含めて不採択になっても仕方がないと思っていた。しかし福井委員の意見を聞いて、来年に向けての準備のために少しでも、減額して出したらどうかということで、ぜひ、川は面白いということを知ってもらいたいという思いが私自身ある。

調査費というわけでもないが、少しでも付けていただけたらと思う。また、プレゼンで魚釣りの話が出たが、その辺から始めるのも良いと思う。

【藤田会長】

大々的になってくれば当然、管理監督者の許可が必要になってくる。例えば、7艇、8艇を付けたとしても現実問題使えないということもあり得るわけで、税金を無駄遣いしていいのかといったこともある。1艇ずつ付けて、折衷案ではないが、20万円で見積りのそれぞれ単価を足していって、消費税を入れるとその位になるのでは。

(会場から「大人用も、子供用も両方か。」の声)

そうだ、大人用、子供用両方1艇ずつということだ。

【市村委員】

昨年却下され、今年も却下されたら本当にやる気がなくなるのではないかと感じる。これだけ熱意を持ってやられる、川遊びを通して子どもたちの教育をとということで、会長の言われたとおり、準備段階で付けるということは賛成である。

【藤田会長】

今、おおざっぱに20万円と言ったが、正確に1艇ずつ、消費税を入れていくらになるのか、また市村委員の言われた調査費、これも考えなければならない。

【市村委員】

これで、来年しっかりしたものが提案されなければ、怒らなければならないと思う。

【西山委員】

調査費として付けるのは良いことだが、それなりに調査資料を、どういった調査をしたのか、次の提案時に提示していただきたいということをお願いする。

【藤田会長】

私が一番恐れているのは、市村委員や福井委員の時代と今の社会情勢は違う。間違いがあった場合、どこが責任を取るのかということが必ず出てくる。我々の税金を有効に

使っていただくため、慎重にならざるを得ないと思う。

【池田委員】

会長から各1艇ずつで20万円くらいという意見だが、パドルやジャケットを入れて計算すると、30万円くらいになる。他の委員の意見もお聞きしなければならないが、30万円というより、調査費、予備費、準備費といった形、資格を取るなら取るようにして、10万円、15万円、20万円という、実際にカヤックを購入するのではなく、調査費、予備費、準備費と言う形で提示した方が良いのではと思う。

【金子委員】

検査や調査をして、もし、だめだったらこの事業はできないということか。

【藤田会長】

そうだ。

【金子委員】

であれば、検査、調査をして全て大丈夫ということで提案された方が良い。もったいないと思うのが、どうして昨年、課題が挙がったのに今回提示できなかったのかが、とても残念に思う。子どもたちに経験させるということは、とても良くわかるし、賛成である。なぜ、今日の段階でそれが出てこなかったのか。

カヤックを買ってから川を調査して、もし、だめだったら事業ができなくなってしまうので、池田委員の言われるように、最初に検査等をしてからの方が良いのではと思う。

【杉田委員】

今の意見に賛成する。市村委員、福井委員も提案者の心情や努力を慮って何とかしたいということは、同感であるが、1艇ずつで20万円とか30万円ということだが、金子委員の言われたとおり、川的环境など、いろいろ準備が整っていないということであり、それぞれ1艇ずつ、1着ずつ、1組ずつ買って、ただ、道を付けたいということはわかるが、極論すると1艇も与えられないと考える。

【総務・地域振興グループ西山グループ長】

調査費のお話が出てきているが、調査費となった場合に具体的に調査費を使ってどういった項目、例えば、人をお願いするのであれば謝金等が必要になってくる。手続きにあたっては、申請だけの手続きなのか、いろいろ考えられる。その中にはカヤックを1艇購入するということも考えられる。と、言うことであれば、具体的に単価×数量で支払する金額になるという、積み上げが必要になってくる。

事務局として次の段階で考えているのは、不採択ということで0^{ゼロ}円ということになれ

ば、提案者に通知させていただくが、減額して採択となった場合は、提案書の内容、購入、支払内容に基づいて進めるということで、地域協議会で決めていただいた細かな内容、積み上げた項目を赤字で記入したものを提案者へお返しして、提案者がそれに基づいて進めるという了解をいただかなければならない。少額でも採択を決めた場合は内容が非常に重要になってくる。それを前提に提案者の方で取り組んでいただけるのかといったことがあり、事務局としても今の意見等を聞いていて、例えば提案者の方の時間があればもう一度こちらに来ていただいて、それを含めて協議していただいて決定するというのも方法の一つと考える。

他の事業もあり、全体の協議をしていただいて、その結果、この件についてどうするかを皆さんである程度、方向付けを決めていただき、その結果もう一度聞きたいということであれば、提案者へ連絡させていただく。また、この場で不採択ということであれば、そのように対応させていただく。

【藤田会長】

おっしゃるように、調査費は今回の申請書にはなく、項目が違うわけで、このまま調査費として採択されても事務局としては困るということだ。したがって、採択か不採択かということで、その中で注文を付けて来年に向けて、こういった形で調査費を出してほしいといったことはできるということだが、いかがか。

確かに提案者の思いは伝わってくるが、実際にどうするのかということで、手続きも必要になってくるだろう。定期的に活動するとなれば監督官庁の許可も必要になってくるだろうと思われるので、今回は残念ながら不採択としてはいかがか。

【市村委員】

準備不足であることが悪いので、今、事務局が言われたように、もう一度来ていただいて話を聞く気があるのかどうか、提案者がその気があればそうしていただいても良いが、そこまで言われるなら不採択とするしかないのではと思う。来年まで頑張るからなんとか、ということであれば仕方がないが、それができるのか、できないのか、私は判断しかねるので会長に一任したい。

【藤田会長】

一任というより、道理で言えば、この部分について採択できないなら、その条件をなくすので、採択してほしいということになってしまう。それは他の提案者も同じで、もう一度来ていただいてどうするのかということとはできないと考える。

(会場内「同感だ。」の声)

【福井委員】

今、「調査」というキーワードが出てきたが、保倉川で安全にカヌーができるかどうかということを当事者が調べるにしても、それに資する材料がないとどうにもできないわけで、保倉川で安全にカヌーができるかと誰に聞いても答えられない、やはり当事者が調べなければならないと思うが、それに資するものはご本人が購入されたカヌー1艇だけということになれば、調査というか下調べもできない。また、来年提案されるとしても、使用許可や水質を調べて、保倉川のどこでやるとか、どこが安全だとかということに関しては答えようがないのではと考える。

それに資するものとして、とりあえず子供用のカヤックは必要ないと考える。提案者が持っている1艇ともう1艇大人用のものがあれば、安全面等は確認できるのではないかと思われるので、できたら大人用の1艇をとということで、もし来年、同様の提案をされれば皆さんの質問にお答えできる材料が用意できるのではと考えるが、いかがか。

【村松進副会長】

私も福井委員と同じで意見で、大人用を1艇購入した場合、送料含めて98,100円ということで、調査していただければ、来年に向けて調査費ではないが、実績を与えて来年に向かっていった方が良いのではないかと考える。

【市村委員】

それにプラスして、ライフジャケットをお願いしたい。先ほど提案した魚釣り等にも使用できるため、皆さんが許可していただけるのであればライフジャケットを入れていただくと、20万円弱となるが、その方が良いかと思われるが、いかがか。

【藤田会長】

最初に提案したが、カヤックは大人用、子供用1艇ずつ、アルミパドル1セットずつ、ライフジャケットもそれぞれ1着ずつということで、運送費、消費税も含めて合計すると194,076円となる。区切りを良くして、194,000円ということで、条件を付けて、これを使用していただいて監督官庁の許可を取ってということを経年に向けてしていただくということでお願いするということではよろしいか。

それでは、確認する。提案書の「イ 支出の部」を見ていただきたい。

・カヤック	初心者向け	1艇	79,000円
	子・女性向け	1艇	69,000円
・アルミパドル	大人向け	1組	8,500円
	子供向け	1組	3,200円

・ライフジャケット	大人向け	1着	6,800円
	子供向け	1着	5,600円
・配送料		2艇×3,800円	=7,600円
・消費税			14,376円
・合計			194,076円

端数を整理して、194,000円という形で確認したい。ただし、今、議論があったように、水質や監督官庁の許可等をとということについては今年中に検証していただくという条件を付けてということをお願いする。

残り3件となったが、皆さんからの発言をお願いする。

それでは私から、「地域活性化モデル事業」についてはNPO法人にされ、会員数も積極的に勧誘されて、毎年実行できるように努力されており、昨年からライトアップといった話が出ていて、昨年はなかなかそこまで手が回らないといったことで、今回提案されてきた。これについてはいかがか。

安塚や猪子田、そして長走ということで、将来連携をとっていききたいと、そして短期間だが、53人の会員も集めている。春から初めて1年間の管理は大変だと思われるが、一生懸命されているということだ。

【市村委員】

一生懸命に頑張っていると思う。なかなか大変だと思うが、中猪子田などが使用しているものをうまく借りていただいて、ライトアップはきれいなものが見られるのであれば、やってもらっても良いかと思う。借りてできるものであれば、我慢して頑張りたいと思う。

【藤田会長】

ライトアップは採択して、エンジン付動噴と移動用アンプについては見送るということか。

【市村委員】

移動用アンプはまだわからないが、動噴は中猪子田から借りて調達できるのであれば、今年はそれで頑張っていたらと思う。配分額と申請額がこれだけ開いてしまうと皆さんから少しずつ我慢してもらえないと思う。

【福井委員】

移動用PAシステムだが、今まで総合事務所から借りていたということだが、これは機械自体の調子が悪いのか。使い方的な部分で問題があるということもありえるが、普

段、総合事務所で使用されて調子が悪いというのであれば、購入も必要だと思うが、その辺何か情報はないか。

【村松進副会長】

私もお手伝いに参加していて、あれだけの面積で皆さんに聞こえるような音響設備ということで、やはりこのくらいかかると考える。市村委員の言われたエンジン付動噴は我慢して、ライトアップと音響設備は採択してあげたいと思う。

【藤田会長】

貸し借りは農機具と同じで、借りる手間等考えた場合、手元があれば便利だということとは間違いないが、使用する頻度等を考えた時にもったいないかと思われる。そこで、リースという話が出てくる。その辺はデリケートな問題になってくると思う。

ライトアップの設備が626,400円、移動用PAシステムが425,000円ということで合計は1,051,400円ということか。

【池田委員】

支出の部を見ると希望額が1,437,580円になっているが、上に消耗品として消毒薬剤があり、今回エンジン付動噴は我慢してもらおうということだが、希望額からエンジン付動噴を引いた金額で約110万円になる。その金額でいかがか。

【藤田会長】

消耗品も入れるということか。

【池田委員】

消耗品は入れた方がいいのではないかと思います。

【市村委員】

希望金額は、1,137,000円で、事業費が1,437,580円であり自己資金で30万円出すという思いがあるということで、皆で痛みを分け合うということであれば、100万円を切るような金額で何とかなる方法があればと思う。

事務局に計算してもらいたい。ここまでの総額でいくらなのか出していただきたい。そして、まだ3つの提案が残っており、「うらがわらスポーツクラブ」特記事項にある「スポーツタイマーは必要ない」ということになると、エアロアーチだけで50万円くらいになる。それと「特定非営利活動法人保倉川太鼓」が30万円、「NPO法人桜づつみ公園を守る会」が90万円といった数字だと総額でいい線になると思われる。

【総務・地域振興グループ宮川班長】

それでは、4団体の合計だが。

・浦川原小学校支援事業	1,986,000円
・うらがわら雪あかりフェスタ	253,000円
・浦川原中学校吹奏楽部支援事業	1,435,000円
・青少年の地域での育成にかかわる レクリエーションスポーツ事業	194,000円
・合計	3,868,000円
・残額	1,632,000円

【市村委員】

先ほどの私の提案で、大体のいい線だと思う。しかし単純にいかないとは思いますが、皆さんの頭の中に入れておいていただきたい。

【藤田会長】

市村委員、「NPO法人桜つつみ公園を守る会」は具体的に110万円ということか。

【市村委員】

そこまでは言わないが、ただ、「特定非営利活動法人うらがわらスポーツクラブ」のスポーツタイマーはいらないという特記事項があり、それを我慢していただくとエアロアーチだけで50万円ほど、そして「特定非営利活動法人保倉川太鼓」は37万円の申請だが30万円くらい、そうすると「NPO法人桜つつみ公園を守る会」は90万円くらいにすると、大体いい金額になる。それはあくまで一例であり、他の委員の考えも聞かせていただけたらと思う。

ただ、エアロアーチだけは使い道がいろいろあると思われるので、ぜひ何とかしていただいた上で、「NPO法人桜つつみ公園を守る会」をどうするか決めれば良いのではと考える。

【藤田会長】

それでは、「特定非営利活動法人うらがわらスポーツクラブ」のスポーツタイマーとスタンドについては我慢していただくということで、エアロアーチは551,482円となっており、端数整理して551,000円で仮置きということにする。

そして、「NPO法人つつみ公園を守る会」のエンジン付動噴を除くと110万円ほどになるが、これをどうするかということだ。

【村松進副会長】

「NPO法人桜つつみ公園を守る会」から1,137,000円の申請があり、他の団体も減額して採択してきていて、「浦川原中学校同窓会」は7割ということだが、これ

に当てはめると80万円くらいになるが、100万円以下、90万円くらいにしていた
だき、皆さんに妥当な配分になるかと思われる。100万円を超えると、ほぼ満額とな
ってしまうので、少し我慢してもらうところは我慢してもらい、また、来年申請してい
ただけたらと思う。

【市村委員】

事務局として、単純に90万円とした場合はだめなのか。何か項目を削って金額を決
めたほうが良いのか、ただ、90万円として我々が決めたということでも良いのか。

【総務・地域振興グループ西山グループ長】

具体的に、項目別に積み上げて採択していただけたら大変ありがたいのだが、積み上
げた結果こうなると、特に今回の「NPO法人桜つつみ公園を守る会」の提案につい
ては総額1,437,580円で自己資金の30万円を持ち出しされるということで、減
額した場合に提案者がどれだけ負担できるかを含めて検討していただきたい。

【藤田会長】

単純な掛け算方式で何割では、だめだということだ。項目別に一つずつどうかという
ことをお願いします。

【村松進副会長】

それでは、ライトアップ設備で626,400円、移動式PAシステムが425,00
0円で、合計1,051,400円でどうかと思う。自己資金も出しているとい
うことで、これで我慢していただきたいと思う。

【市村委員】

これで進めていただき、もし足らなければ後で調整するというにしたい。

【藤田会長】

最後に、「第8回浦川原和太鼓祭」だが、意見をいただきたい。提出いただいた提案
書を見ると先行して執行されている部分もあり、この辺も含めてお考えいただきたい。

(事務局と金額について調整中)

事務局との調整もあり、「NPO法人桜つつみ公園を守る会」は105万円というお
話だったが、自己資金で300,580円を持っていて、105万円から自己資金分を
引くと、751,000円で事業ができるということだ。

【福井委員】

農薬は除外されているのか。

【藤田会長】

除外している。

【福井委員】

農薬は認めない方向なのか。

【藤田会長】

それは、協議していただきたい。

【福井委員】

動噴はお借りするという事だが、農薬は必要であり、入れた方が良いのではと思う。
それで計算すると。

・消毒用薬剤	51,180円	
・ライトアップ設備設置一式	626,400円	
・移動用PAシステム	425,000円	
・総額	1,102,580円	
・自己資金	▲300,580円	
・合計	802,000円	となる。

【藤田会長】

それでは、桜つつみ公園を守る会は802,000円ということでよろしいか。すると「特定非営利活動法人保倉川太鼓」は279,000円になる。

【福井委員】

「浦川原中学校同窓会」が7割というアバウトな金額にしたが、そこをもう少し詰めれば浮いてくる部分もあると思う。

【金子委員】

私も同じ意見だ。やはり計画は金額の積み上げで来ていて、7割ということはおかしいと感じる。いるものの優先順位で決定する。必要なものに対して支給、援助するというのが良いと思う。

【藤田会長】

それでは「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」を見直していただく。先ほどどなたか言われたが、フルートまでで、1,252,800円になるという数字を出していただいたが、7割で入れた数字が144万円ほどということだ。

【池田委員】

「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」は7割ということで、1,435,000円の支給ということだったが、今回フルートまでで1,252,800円というお話だったが、例

えば、うらがわら雪あかりフェスタだと金額は少ないが満額ということで採択している。

「特定非営利活動法人保倉川太鼓」も37万円になるように楽器で調整できたらと思う。

【福井委員】

私が調べた楽器についての資料だが、例えばヤマハカスタムトランペット、YTR-850Sは、206,500円でカタログ価格の85%になっている。

(ここで、カタログに記載されているYTR-850Sの説明文を音読。)

若干、下位グレードのものであるが、YTR-4335GIIというものがあり、楽器のキーは同じであり、色がシルバーのものを選んで、YTR4335GSIIがあり、これはカタログ価格で、135,000円になる。二葉楽器の見積りは全てカタログ価格の85%になっており、これに当てはめると、123,900円くらいになる。提案のあった楽器との差額が82,600円ほどになる。

(ここで、カタログに記載されているYTR-4335GSIIの説明文を音読。)

安いから悪いというものでもないと思われ、グレードを少し見直してもらえば保倉川太鼓にも満額の予算が付けられると考える。他の楽器、フルートなども見直しが可能だと思う。トロンボーンも2台であり、少しグレードを見直していただけたらと思う。

【藤田会長】

福井委員の言われることもわかるが、機種を指定してこられた専門家の意見を伺う機会がなく、やり方としては良いと思うが、選定のほうは同窓会にお任せして、掛け算は良くないと言われるが、出ている数字の掛け算で数字を出して、その中で機種を選んでいただくということにした方が良いのでないかと思われる。これを専門家でもない我々が1台ずつ検討しては、方向を誤ってしまうことになりかねない。その点を福井委員に了解していただくということで、中学校の楽器については掛け算方式にさせていただき、その中で選定していただくということで了解いただきたい。

それでは、数字合わせのようになってしまったが、保倉川太鼓は279,000円になるが、ここをどのようにするかということだが、いかがか。

【村松進副会長】

「特定非営利活動法人保倉川太鼓」は資料を見ても、かなり頑張っている。福井委員の言われた楽器のグレードを下げるということに賛成で、そこで「特定非営利活動法人保倉川太鼓」には満額の37万円を支給するというようにした方が良くと思う。

【市村委員】

聖域というか、来年度統合する小学校に関して、他の皆さんに我慢していただい

る状況の中、全額支給ということで、これこそ、コンテストに出るわけでもないということもあり、なんとかなるのであれば、この辺を考えてもらって、その分を「特定非営利活動法人保倉川太鼓」へということができるとかどうか。皆さんの意見をお聞きしたい。

【村松進副会長】

私も統合実行委員をしており、市村委員の言われることもわかるが、私個人としては申請されたものは全て承認してあげたいという考えである。

【藤田会長】

聖域ということではないが、新しくスタートをきる学校で保護者への負担もここには出ていないが、かなり負担になっていると、今まで進めている中で感じている。具体的な数字は、今、出てこないが、できるならばスタートするにあたって、保護者にこの部分は負担させることがないように、教育委員会も地域協議会の意見を聞いていただき、取り入れていただいた部分もたくさんある。この部分は後援会の設立準備委員会からの提案という形で上がってきているが、村松進副会長が言われたように、スタートに当たって満額を付けるということは良い選択だと思う。

それと、保倉川太鼓の279,000円だが、特記事項でいろいろ意見が挙がっていて、私も聞き取りの中で、提出されている書類の貸借対照表、損益計算書以外で資金を持っているとお聞きしたので、仮に不採択となっても事業を実施されるということで、この部分について、皆さんもご配慮いただき、特記事項にある「入場料を協賛金のような形でとっても良いのでは。」といったことも言われており、私としては余った分を回したということではないが、279,000円で今回は我慢していただくということではいかかがか。他に意見はないか。

【市村委員】

それで、計算は合うのか。

【総務・地域振興グループ宮川班長】

ここで、確認のため金額を申し上げる。

- | | |
|-----------------|------------|
| ・第8回浦川原和太鼓祭 | 279,000円 |
| ・地域活性化モデル事業 | 802,000円 |
| ・浦川原小学校支援事業 | 1,986,000円 |
| ・うらがわら雪あかりフェスタ | 253,000円 |
| ・浦川原中学校吹奏楽部支援事業 | 1,435,000円 |

・青少年の地域での育成にかかわる

レクリエーションスポーツ事業 194,000円

・第5回うらスポマラソン大会 551,000円

最後に確認だが、「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」に関しては、205万円の申請金額の7割で金額を算定している。

【藤田会長】

合計は550万円になるのか。

【総務・地域振興グループ宮川班長】

550万円になる。

【藤田会長】

総括的に調整やご意見はあるか。いずれの団体も減額については、やむを得ないということで、減額されても事業を継続するといったお話をいただいております、皆さんからの意見がなさそうなので、事務局で確認したこの数字で合計550万円ということで、よろしいか。確認のため皆さん挙手願う。

(会場内全員挙手)

それでは、採択についての協議を閉じるが、事務局から何かあるか。

【総務・地域振興グループ西山グループ長】

特になし。

【藤田会長】

それではこれで第3回浦川原区地域協議会を閉じる。

9 問合せ先

浦川原区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 025-599-2301 (内線 305)

E-mail : uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。